

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇3月30日～

先週の相場はリスク回避的な動きが強まり、株価の下落も心配です。

ホルムズ海峡の閉鎖が長引く可能性が高まっているため日本や欧州にとっては逆風が吹いています。軍事施設だけでなく、湾岸諸国のエネルギー関連施設がかなり攻撃を受けているため原油価格は高止まりするという予想が増えています。

1 バレルが 200 ドルを超えてくるという予想もあり、そうなると今の価格の 2 倍以上になるため世界経済はインフレが加速する可能性があります。

また、オーストラリアなどの資源国でも精製石油製品の 80%以上がアジアからの輸入ということもあり、エネルギー危機でパニックになっているようです。

日本は比較的落ち着いて見えますが為替相場でドル/円が 160 円を超えてきたということで原油高と円安が進めば日本もひどいインフレ(物価高)になってくる可能性があります。

米国とイランの停戦に向けた話し合いはほとんど進んでいないように見えます。

お互いに条件を出してきましたがウクライナとロシアのように平行線になりそうです。

トランプ大統領は 4 月 6 日までイランの発電所への攻撃は延期すると言っていますが来週もどんな動きになるのかわかりません。イスラエルは攻撃をやめる気はなさそうです。

レバノンのヒズボラも攻撃に参加してきたため紅海を通るルートも難しくなってきました。

イランはホルムズ海峡を支配し、通行料を取ると言っていますが通行料を払う場合も迂回ルートを使う場合も原油の輸入価格が上昇することは間違いありません。

4月中に解決できない場合は、本格的な不景気と金融危機が襲ってくるという最悪シナリオにも備えなければいけません。

中東と言えばオイルマネーが世界の金融資産に投資していますが貿易ができない状況が続けば投資マネー(政府系ファンドなど)が引き上げる動きが出る可能性があります。

また、トルコがリラ安防衛のために金(ゴールド)を売却したというニュースもあり、金融資産を売って現金(主にドル)に替える動きにも注意がいります。

リーマン・ショックの時のように短期間でマネーの逆流が起こり、信用不安からあらゆる金融資産が暴落という動きになるかもしれません。

有事のドル買いの動きが今月に入って顕著になってきているためドルが各通貨に対してどのように動くかを見ておく必要があります。

3 日は、欧米などの多くの国がイースター(復活祭)のため祝日(グッド・フライデー)となり、休場となります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

先週は円安が進み、160円を超えてマーケットが終わっています。

160.5円を超えてくると161円台後半まで抵抗があまりなく、2024年夏につけた162円手前のレートが意識されます。

161円を超えると介入警戒感が強まるため突然急落するような動きが出るかもしれません。

介入がなく、162円を超えてくると円安がさらに進む可能性が出てきます。

下値は159円台を維持している間は堅調な動きが続くそうです。

159円を割り込むと157.5円あたりが下値のメドとなり、ここも割り込むと円安の流れに変化が出てきそうです。

<気になるクロス円>

クロス円も高値圏での推移が続いています。

ただし、今の相場は円安というよりもドル高のためクロス円は上値が重くなってきました。

オセアニア通貨(豪ドル・NZドル)も反落リスクが出てきました。

週足で見ても下げてきているため安値更新の動きを警戒したいです。

ユーロは方向感のない動きとなっていますがホルムズ海峡閉鎖の影響を考えるとユーロよりドルが強くなっていく可能性が高まっています。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では3月東京都都区部消費者物価指数、2月鉱工業生産、日銀短観(1-3月期)などがあります。

米国では、1月ケース・シラー米住宅価格指数、3月シカゴ購買部協会景気指数、3月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、2月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、3月ADP雇用統計、2月小売売上高、3月製造業PMI(改定値)、3月ISM製造業景況指数、2月貿易収支、前週分新規失業保険申請件数、3月雇用統計、3月サービス部門・総合PMI(改定値)、3月ISM非製造業景況指数などの発表があります。

欧州では、ユーロ圏とドイツで3月消費者物価指数、3月製造業PMI(改定値)などがあります。

ほかには、中国で3月製造業PMI、英国で10-12月期GDP(改定値)、カナダで1月GDPの発表などがあります。